

第2次おおい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-①	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	多角的な若者視点による活力創生		
戦略事業名	①おおい若者まちづくり塾開催事業		
予算事業名	おおい若者まちづくり塾開催事業		
令和5年度実績額(円)	2,472,379円	令和6年度予算額(6月補正後)	2,330,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業概要・実績	<p>まちづくりに興味のある住民を募り、テーマごとに議論を重ねることで、まちづくりについての意識を深めるとともに時代を担うリーダー意識を醸成する。</p> <p>「おおいまちづくり塾」を2回開催 【第1回】参加9名 講師：田中志敬氏(福井大学) タイトル：まちづくりをはじめるための集落課題チェック</p> <p>【第2回】参加12名 講師：江川誠一氏(福井大学) タイトル：身近な地域資源を活かしたまちづくりの進め方</p>	<p>潜在的にまちづくりに興味のある人材を発掘するため、「まちづくり塾講演会」の開催を企画。 ※新型コロナウイルス感染症の拡大により募集途中で中止(26名申込)</p> <p>⇒講演会の申込者や未来仕掛け人OBの紹介者により未来仕掛け人2期生(仮称)を設立 ※現在10名のメンバーが在籍</p> <p>《メンバーの活動》 ・仕掛け人OBとの意見交換会 ・高濱明日研究所とのオンライン交流会 ・メンバー会議 2回</p>	<p>令和3年度から事業に参加しているメンバーでの本格的な活動を開始し、会議やワークショップを重ね、メンバーが主体となり企画・運営を行った2回のイベントの開催を支援した。</p> <p>○ハロウィンフェスティバル 期日：令和4年10月29日(土) 場所：SEE SEA PARK 参加者数：約250人</p> <p>○おおい町eスポーツ大会 期日：令和5年2月19日(日) 場所：SEE SEA PARK 参加者数：約50人</p>
	令和5年度	令和6年度(予定している内容)	
	<p>事業に参加しているメンバーが立案したイベントの開催やプロジェクトの実施を支援した。</p> <p>○納涼祭 期日：令和5年7月29日(土)／場所：SEE SEA PARK 来場者数：延べ700人以上</p> <p>○ボードゲームイベント 期日：令和5年11月12日(日)／場所：SEE SEA PARK 参加者数：58人</p> <p>○フリーペーパー制作 タイトル：Ohi Time／テーマ：おおい町で楽しむ趣味 制作期間：令和6年6月～令和7年2月 仕様：16ページ・B5・フルカラー 発行部数：2,000部</p>	<p>令和5年度に引き続き、既存のメンバーを中心とした地域の活性化や課題解決を目的としたプロジェクト(イベント・フリーペーパー制作)の実施を支援していくとともに、地元中学校や高校生、政策コンテストを通じて町とのつながりをもった大学生などとの連携した取り組みを進めることで、次世代のリーダー育成や関係人口の増加を図る。</p>	



評 価 (Check)						
成果を測る指標 (KPI・数値目標)	参加者数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計472人		令和5年度末	774人	96.7%
	目標値 (令和6年度末)	累計800人				
① 数値目標達成状況					おおむね達成	
達成状況の要因分析	<p>おい町未来仕掛け人会議や、若者まちづくり塾に関連したワークショップやイベントの開催、プロジェクトの実施を通じて、まちづくりに関わった住民の人数を増やしてきたことから、目標値を概ね達成している状況である。</p>					
② 事業成果						
令和5年度の成果・課題	<p>参加メンバーが中心となったイベント・プロジェクトの実施を通じて、若者の主体的なまちづくりに対する意識の醸成を図れた。また、イベントの実施による賑わいの創出や関係人口の増加、移住・定住促進のPRツールとしての活用が期待できるオリジナルフリーペーパーを制作することができた。</p>					
戦略期間全体を通しての成果・課題	<p>メンバーが企画したイベントは毎回賑わいをみせ、また、プロジェクトが度々メディアでも取り上げられてきたことから、事業としての認知度は高まりつつあり、各所からメンバーに対するイベントへの協力要請などの声がかかることも多くなってきた。 イベントやプロジェクトに取り組むなかで、事業と関わる若者も少しずつ増加してきているが、いまだに一部の固定化したメンバーに依存している部分が多いため、さらなる関係人口の拡大を目指し、多くの若者を巻き込む工夫が必要である。</p>					
③ 令和7年度以降の事業継続予定					継続予定あり	
(継続予定ありの場合) 今後の方針	<p>既存メンバーでの活動初期はイベントの開催を中心に、まちづくり活動に関わる人数を増やしてきたが、現在取り組んでいるプロジェクトのテーマは多岐に渡り、多様な若者がまちづくり活動に関わる可能性を有している。 事業の取り組みが活性化してきた現在の流れを継続し、今後もさまざまなプロジェクトにチャレンジしていくことで、当事業が若者たちが地域やまちづくり活動に関わりをもつきっかけを創出するための場となるよう更なる拡大を図りたい。</p>					
④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)						
<p>・本事業によるまちづくりイベントやプロジェクトに目標に近い人数が参加し、町民のまちづくり参加意識の醸成に繋がったと評価できる。 ・事業継続を検討するに当たっては、本事業の支援を受けて誕生した「おいCraftGarden」が自主財源のみでイベントを企画・運営する団体へと成長したように、町の支援がなくても自走できる団体を生み出し、持続可能なまちづくりに繋げていく方策の検討が必要である。</p>						

外部評価の結果
意見等なし

第2次おおい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-②	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	多角的な若者視点による活力創生		
戦略事業名	②まちづくり政策コンテスト開催事業		
予算事業名	官学連携事業		
令和5年度実績額(円)	5,375,769円	令和6年度予算額(6月補正後)	5,771,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業概要・実績	<p>学生の目線や感性等により、地域の課題や地域資源を発見し、まちづくりのアイデアを提案・実行してもらった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大等の社会情勢を考慮し、令和2年度は中止とした。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、リモートを基本に実施し、県内や関西の5大学7チームから提言が発表された。</p> <p>発表された政策提言の中で、令和3年度に事業化に至ったものはないが、施策への活用検討を継続していく。</p>	<p>県外8大学から10チーム71名が参加。3年ぶりに学生がおおい町内でフィールドワークを行い、各チームから10のアイデアが提案された。</p> <p>発表会で優秀と審査された4チームは、令和5年度に町内でアイデアを実践する。</p>
	令和5年度	令和6年度(予定している内容)	
	<p>4チームが前年度コンテストで提案したアイデアを町内で実践した</p> <ul style="list-style-type: none"> ●京都府立大学 ドローン体験イベントの開催 (スマートシティの実現) ●龍谷大学 間伐材DIYワークショップの開催 (地域資源の循環) ●近畿大学 自然の中でのテントサウナ体験イベント (若者集客) ●びわこ学院大学 町内合宿プランの提案 (若者集客) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回目となるコンテストを開催予定 ・コンテストテーマは「新幹線の向こうに行きたくなる、おおいの魅力創造・発信プロジェクト」 ・県外5大学の11チーム76名が参加予定 ・参加チームは、8月～9月にかけて町内でフィールドワークを実施し、おおい町の魅力を全国に届ける地域資源を活用したまちづくりのアイデアを立案して、11月10日のアイデア発表会で発表予定 ・住民グループからもアイデアも募集する 	



貼付)



評 価 (Check)						
成果を測る指標 (KPI・数値目標)	政策提案数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計26件		令和5年度末	累計51件	72.9%
	目標値 (令和6年度末)	累計70件				
① 数値目標達成状況					おおむね達成	
達成状況の要因分析	過去にコンテストに参加した大学が再度参加することが多いことが、参加者(政策提案)の獲得に繋がっている。					
② 事業成果						
令和5年度の成果・課題	学生自身がアイデアを実践した初めての年だったが、各チームが開催したイベント等によって町民等が先端技術(ドローン)や町の自然・資源に触れ、地域活性化の種をまいた。チームの中には令和6年度も引き続き町内で活動を継続するチームもあり、交流人口・関係人口の拡大にも繋がっている。					
戦略期間全体を通しての成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が提案したまちづくりのアイデアを町や学生自身が実施して一定の成果が得られた他、コンテストを通して学生と町民との交流が増えた。 ・学生のアイデアを都度町が予算化・事業化していくという当初の方式は限界があり、課題だったが、学生自身にアイデアを実践してもらう方式に変更したことにより解決し、大学や学生との関係人口の拡大にも繋がった。 					
③ 令和7年度以降の事業継続予定					継続予定あり	
(継続予定ありの場合)今後の方針	コンテストでの学生の意見や提案は、町外若者から見た貴重な意見として施策検討の材料として参考にしていく他、学生によるアイデアの実践を通じて大学や学生との交流を通して、さらなる交流人口や関係人口の拡大に繋げていく。					
④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)						
<ul style="list-style-type: none"> ・学生等による若者視点のまちづくりアイデアから町の施策に活かされたものが生まれた他、学生や大学と町民・関係団体との交流を通じて町の活性化にも繋がったと考える。 ・事業継続を検討するに当たっては、コンテストに参加した学生や大学との関係を一過性のものとせず、交流人口や関係人口の拡大に繋がるような、参加者と持続的な関係を構築する方策を検討する必要がある。 						

外部評価の結果
意見等なし

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-③	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	多角的な若者視点による活力創生		
戦略事業名	③地域おこし協力隊支援事業		
予算事業名	地域おこし協力隊募集・管理事業		
令和5年度実績額(円)	503,000円	令和6年度予算額(6月補正後)	0円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業概要・実績	<p>平成27年度から地域おこし協力隊を募集・受け入れており、人口減少及び高齢化等が進行する本町において、町外の人材を積極的に取り込み、地域の活性化および定着・定住につなげる。協力隊募集イベントへの参加等を通して着任を募り、定住した隊員には報奨金を支給している。</p> <p>【令和2年度末時点】 現役隊員 : 2名 着任者累計: 10名 退任者累計: 8名(うち定住者3名)</p>	<p>隊員1名が期間満了で退任し、本町に定住した。 年度末に新規隊員の募集を開始した。</p> <p>【令和3年度末時点】 現役隊員 : 1名 着任者累計: 10名 退任者累計: 9名(うち定住者4名)</p>	<p>隊員1名が期間満了で退任し、本町に定住した。 昨年度に引き続き新規隊員を募集。HPや募集専用サイト、イベント等で周知を図り、3/1付けて1名が新たに着任した。</p> <p>【令和4年度末時点】 現役隊員 : 1名 着任者累計: 11名 退任者累計: 10名(うち定住者5名)</p>
	令和5年度	令和6年度(予定している内容)	
	<p>4/1付けて1名が新たに着任した。</p> <p>【令和5年度末時点】 現役隊員 : 2名 着任者累計: 12名 退任者累計: 10名(うち定住者5名)</p>	<p>2名の現役隊員が活動中。 1名は観光情報の発信や町のファン獲得を目的としたコミュニティ運営等を行っており、もう1名はまちづくりアイデアコンテストに関する業務や、SNS等を活用した町の情報発信等を行っている。</p> <p>(今年度は現時点で新規隊員の募集予定はなし)</p>	

トップ **福井** 全国 紙面 連載 市町 写真 人事異動 生活情報 おくやみ 速報 速習セミ

すべて 政治 経済 社会 原発 事件・事故 学校・教育 医療 スポーツ 催し・文化 天気

D刊 | おこしびとの記事一覧

+ この連載をフォロー



雇用生み出し観光の土台を、自分もプレーヤーに 小牧香織さん(36) = おおい町おこしびと_ふくい地域おこし協力隊活動記

2024年6月25日 午前5時00分

社会

評 価 (Check)						
成果を測る指標 (KPI・数値目標)	協力隊退任後の定住人数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計0人		令和5年度末	5人	83.3%
	目標値 (令和6年度末)	累計6人				
① 数値目標達成状況					おおむね達成	
達成状況の要因分析		受け入れ開始当初、本人の希望と実際の業務とのミスマッチ、家庭の事業、自己の都合等の理由で定着せずに退任が続いたことを踏まえ、新たに隊員を募集する場合は、採用条件や活動内容ができる限り詳細に明示し、採用後のミスマッチがおこらないように努めるようにしたほか、定期的にも面談して活動状況を共有し、隊員が職場や地域で孤立しないように努めている。				
② 事業成果						
令和5年度の成果・課題		HPや募集専用サイト、イベント等で周知を図った結果、1名が新たに着任した。				
戦略期間全体を通しての成果・課題		任期を終えて退任した10名の隊員のうち、半数の5名が町内に定住した。				
③ 令和7年度以降の事業継続予定					継続予定あり	
(継続予定ありの場合) 今後の方針		事業担当課の要望を踏まえて募集を判断していく。				
④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)						
<ul style="list-style-type: none"> ・目標に近い人数の隊員が退任後に町内に定住したことは、着任中や退任後のサポートが各隊員に好意的に受け入れられたものと評価できる。 ・事業継続を検討するに当たっては、退任後に各隊員に適した活躍の場を提供して生涯にわたる活動を後押しするなど、退任後も協力隊の力を地域活性化に繋げていく方策を検討する必要がある。 						

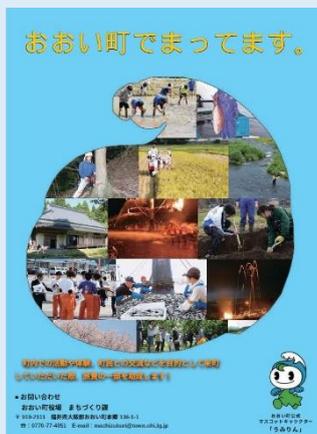
外部評価の結果
意見等なし

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-④	課 名	まちづくり課
------	-----	-----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	④ふるさと体験事業		
予算事業名	移住・定住・交流推進事業(ふるさと体験事業)		
令和5年度実績額(円)	135,000円	令和6年度予算額(6月補正後)	465,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業概要・実績	<p>おい町に関心を持つ町外の方(おいサポーターの登録者)が本町で行う以下の活動に伴う交通費相当額を補助</p> <p>①町内で住居を兼ねた仕事場を探すための活動 ②町が指定するイベントのボランティア運営スタッフとしての活動 ③おい町一次産業体験事業への参加 ④包括連携協定を締結している大学の学生が行う、町民との交流を伴う活動</p> <p style="text-align: center;">令和2年度実績 5件/18名</p>	<p>おい町に関心を持つ町外の方(おいサポーターの登録者)が本町で行う以下の活動に伴う交通費相当額を補助</p> <p>①町内で住居を兼ねた仕事場を探すための活動 ②町が指定するイベントのボランティア運営スタッフとしての活動 ③おい町一次産業体験事業への参加 ④包括連携協定を締結している大学の学生が行う、町民との交流を伴う活動</p> <p style="text-align: center;">令和3年度実績 2件/9名</p>	<p>おい町に関心を持つ町外の方(おいサポーターの登録者)が本町で行う以下の活動に伴う交通費相当額を補助</p> <p>①町内で住居を兼ねた仕事場を探すための活動 ②町が指定するイベントのボランティア運営スタッフとしての活動 ③おい町一次産業体験事業への参加 ④包括連携協定を締結している大学の学生が行う、町民との交流を伴う活動</p> <p style="text-align: center;">令和4年度実績 なし</p>
	令和5年度	令和6年度(予定している内容)	
	<p>おい町に関心を持つ町外の方(おいサポーターの登録者)が本町で行う以下の活動に伴う交通費相当額を補助</p> <p>①町内で住居を兼ねた仕事場を探すための活動 ②町が指定するイベントのボランティア運営スタッフとしての活動 ③おい町一次産業体験事業への参加 ④包括連携協定を締結している大学の学生が行う、町民との交流を伴う活動</p> <p style="text-align: center;">令和5年度実績 2件/28人</p>	<p>おい町に関心を持つ町外の方(おいサポーターの登録者)が本町で行う以下の活動に伴う交通費相当額を補助</p> <p>①町が指定するイベントのボランティア運営スタッフとしての活動 ②おい町一次産業体験事業への参加活動 ③包括連携協定を締結している大学の学生が行う、町民との交流を伴う活動 ④複数の町民との交流を伴うまちづくりに関する調査研究活動<追加> ⑤おい町まちづくりアイデアコンテストにおいて優秀な成績を収め、町がアイデアの事業化を支援した取組を、コンテストに参加した大学の学生等が継続又は拡大して実施するための活動</p>	



評 価 (Check)						
成果を測る指標 (KPI・数値目標)	おいサポーター登録者数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	—		令和5年度末	154人	51.3%
	目標値 (令和6年度末)	300人				
① 数値目標達成状況					未達成	
達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症の拡大を機に、一次産業体験活動や町内での交流活動が途絶えた期間が続いたことから、目標の達成が厳しい状況である。					
② 事業成果						
令和5年度の成果・課題	関西圏の大学生によるまちづくりに関する調査研究活動や、アイデアコンテストに参加した大学生がボランティアとしておい町が主催するイベントに携わるなど、実績のなかった令和4年度と比較すると、少しずつではあるが、交流活動に再開の兆しがみえる。					
戦略期間全体を通しての成果・課題	新型コロナウイルス感染症の影響により活動が停滞した期間があったものの、関西圏を中心とした学生のフィールドワークや一次産業体験・研究活動などでの利用も一定数あり、都市部の若年層がおい町との交流をもつきっかけを創出することができた。					
③ 令和7年度以降の事業継続予定					継続予定あり	
(継続予定ありの場合) 今後の方針	<p>これまで第2次おい町未来創生戦略において、町ではアイデアコンテスト等を中心に、大学生や町内外の若者との関係を創出する施策をすすめてきた。</p> <p>また、令和6年度は一産業体験活動が再開するなど、コロナにより途絶えていた都市部の若年層が当町と関わりをもつ機会を取り戻しつつある。</p> <p>今後、このような学生や若者たちを増やしつつ、継続的にまちと関わりをもつ機会を創出することが、関係人口の拡大や将来的な移住に繋がっていくため、関連する部署や関係機関との連携を図りながら、町全体として、積極的な制度の活用をPRしていく。</p>					
④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)						
<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアコンテストに参加した大学生が本事業による補助を活用してコンテスト終了後もボランティア等として継続的に町に来訪するなど、交流人口・関係人口の拡大に一定の寄与があったと考える。 ・事業継続を検討するに当たっては、町外者と接点を持つ他課の事業と連携するなど、本事業を活用して継続的に町と関わりを持ってもらう町外者を増やすための方策について検討する必要がある。 						

外部評価の結果
<p>(委員) 交通費助成の支給状況を教えてほしい。また、1人何回でも助成を受けられるのか？</p> <p>(町回答) 令和2年度から令和6年10月末までの支給者はのべ131人、支給額合計622,399円である。1人何回でも助成を受けられる。</p>

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-⑤	課 名	農林水産課
------	-----	-----	-------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑤一次産業体験事業		
予算事業名	一次産業スタート支援事業		
令和5年度実績額(円)	3,778,921円	令和6年度予算額(6月補正後)	4,459,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業概要・実績	<p>【一次産業活動拠点施設活用】 町内で一次産業の体験をする際の活動拠点施設「志摩豊夢」の周知を実施 ・施設利用人数: 46人(延べ599泊)</p> <p>【一次産業体験事業】 町内での一次産業体験を希望する方に、ニーズに合致した受入先を調整 ・一次産業受入人数 延べ35人(5人×7日間)</p>	<p>【一次産業活動拠点施設活用】 町内で一次産業の体験をする際の活動拠点施設「志摩豊夢」の周知を実施 ・施設利用人数: 38人(延べ642泊)</p> <p>【一次産業体験事業】 町内での一次産業体験を希望する方に、ニーズに合致した受入先を調整 ・一次産業受入人数: 0人(0日間)</p>	<p>【一次産業活動拠点施設活用】 町内で一次産業の体験をする際の活動拠点施設「志摩豊夢」の周知を実施 ・施設利用人数: 46人(延べ645泊)</p> <p>【一次産業体験事業】 町内での一次産業体験を希望する方に、ニーズに合致した受入先を調整 ・一次産業受入人数: 0人(0日間)</p>
	令和5年度	令和6年度(予定している内容)	
	<p>【一次産業活動拠点施設活用】 町内で一次産業の体験をする際の活動拠点施設「志摩豊夢」の周知を実施 ・施設利用人数: 34人(延べ488泊)</p> <p>【一次産業体験事業】 町内での一次産業体験を希望する方に、ニーズに合致した受入先を調整 ・一次産業受入人数: 延べ21人(3人×7日間)</p>	<p>【一次産業活動拠点施設活用】 町内で一次産業の体験をする際の活動拠点施設「志摩豊夢」の周知を実施 ・施設利用人数: 延べ600泊</p> <p>【一次産業体験事業】 町内での一次産業体験を希望する方に、ニーズに合致した受入先を調整 ・一次産業受入人数: 100人</p>	



象等貼



評 価 (Check)						
成果を測る指標 (KPI・数値目標)	体験者数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	年間延べ190人		令和5年度末	年間延べ21人	10.5%
	目標値 (令和6年度末)	年間延べ200人				
① 数値目標達成状況					未達成	
達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症の影響により、移動が自粛傾向にあったことや、農業体験を受け入れる農家においても、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていることなどを考慮し、大学などを対象とする若年層に対するPR活動を行えなかったため、数値目標を大幅に下回った。					
② 事業成果						
令和5年度の成果・課題	平成30年度から、一次産業活動拠点施設の本格的な運営を開始し、一次産業体験者を受け入れることにより新規就農者の獲得に繋げるため、関西圏の大学等においてPR活動を行ってきたが、令和5年度においても新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、体験者は少数にとどまった。					
戦略期間全体を通しての成果・課題	一次産業体験事業をきっかけとして、本町に定住してくれた方があり、その点においては大いに成果があったと言える。 本事業をより効果的なものにするためには、受入農家や体験者からの意見等を聞き、事業を見直していく必要があると考える。					
③ 令和7年度以降の事業継続予定					継続予定あり	
(継続予定ありの場合) 今後の方針	農家等と連携して体験者の受け入れ体制を整えるとともに、コロナ禍以前に行っていた大学等へのPR活動を再開したい。 また、体験の受入先や新規就農に対する支援など、さまざまな情報を広く発信していく。					
④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)						
<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度においても目標値を大きく下回ったが、本事業をきっかけとして町に移住し、定住した住民がいるなど、事業として少なからずの成果はあったと考える。 ・事業継続を検討するに当たっては、体験者数を増やす方法について見直しを図るとともに、体験後に町内での就農に繋げるなどの方策について検討が必要である。 						

外部評価の結果
(委員)担当課が農林水産課になっているが、宿泊して滞在する人もいる中、町内には民間や公共の宿泊施設がいろいろあるので、担当課を1つに決めず、商工観光課と連携して取り組めば、もう少し幅の広い経済効果が出てくると思う。

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-⑥	課名	社会教育課・商工観光課
------	-----	----	-------------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑥スポーツ・教育合宿推進事業		
予算事業名	(臨時)総合運動公園管理運営事業		
令和5年度実績額(円)	103,647,728円	令和6年度予算額(6月補正後)	589,415,200円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業概要・実績	<p>スポーツ・文化体験交流合宿施設の基本設計を行う業者を決定するため、指名型プロポーサル業者選定委員会を開催し、指名した8社のうち参加表明のあった4社から技術提案書の提出及びヒアリングを行った。選定委員会の審査の結果、最優秀者「ジオ・グラフィック・デザイン・ラボ(大阪市)」と基本設計契約を締結し、合宿施設の基本的方針等について設計を行った。</p>	<p>基本設計に基づき、建設予定地の測量、実施設計(地盤調査含む)を行った。実施設計では、合宿旅行取扱業者や京阪神の大学や高校にヒアリングを行い、繁忙期以外での合宿利用ができる施設のありかたを検討し、設計に反映させた。</p>	<p>資材価格や労務費の高騰により当初予定価格を超過したため、財源確保を含め設計見直しを検討した。</p>
	令和5年度	令和6年度(予定している内容)	
	<p>新規財源確保が見込めることから、その条件に適合する施設基本設計を行った。 総合運動公園合宿施設基本設計業務委託料 6,215,000円 総合運動公園合宿施設基本設計監理業務委託料 1,606,000円 計7,821,000円</p>	<p>実施設計、整備予定地の造成並びにインフラ整備工事を行う。 総合運動公園合宿施設用地構造物撤去設計業務委託 7,590,000円 総合運動公園合宿施設実施設計業務委託料 14,300,000円 総合運動公園合宿施設実施設計監理業務 3,740,000円 合宿所設計確認に係る手数料 1,855,000円 球技場高圧電源ケーブル敷設替え工事 1,020,000円 計28,505,000円</p>	



総合運動公園合宿施設鳥瞰図

評価 (Check)						
成果を測る指標 (KPI・数値目標)	合宿所利用者数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	年間延べ5,592人		令和5年度末	5,858人	73.2%
	目標値 (令和6年度末)	年間延べ8,000人				
① 数値目標達成状況					おおむね達成	
達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の多数を占める近畿圏からのスポーツ合宿利用が控えられる状況にあったが、徐々に状況が改善していることから目標値は維持したい。					
② 事業成果						
令和5年度の成果・課題	本町のスポーツ施設や自然環境のPRすることができ、交流人口の増加に寄与することができた。また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、スポーツロッジ栄光の利用者はコロナ禍前に戻りつつあることから、今後のスポーツ・教育合宿利用増に期待したい。繁忙期の稼働率は高いが、閑散期の稼働率は低いことから企画や営業に尽力し更に集客を図ることが今後の課題である。					
戦略期間全体を通しての成果・課題	各種合宿により町外者の来訪があり、町団体(クラブ)との交流も盛んに行われた。ただし、交流人口増加や再訪のきっかけとなる体験等の施策が実施できているとは言えないのが現状である。					
③ 令和7年度以降の事業継続予定					継続予定あり	
(継続予定ありの場合) 今後の方針	ハード面では新たな合宿所整備、ソフト面では総合運動公園を一体として捉えた合宿誘致や集客効果を指定管理者の更新(令和7年度～)と併せて推進していく。					
④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)						
<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度はコロナ禍後最高の利用者数を達成するなど、関西圏を中心に利用促進をPRした効果が出ている。 ・事業継続を検討するに当たっては、施設利用者が町に再訪したくなる体験プランを開発するなど、事業を交流人口・関係人口の拡大に繋げていく方策の検討が必要である。 						

外部評価の結果
意見等なし

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-⑥	課名	商工観光課
------	-----	----	-------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑥スポーツ・教育合宿推進事業		
予算事業名	観光振興対策事業(合宿補助)		
令和5年度実績額(円)	4,816,000円	令和6年度予算額(6月補正後)	6,150,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
事業概要・実績	<p>将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行った(1団体1回につき20万円を限度)。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円/人泊 地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 利用実績</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円×493人泊 地域交流費:250円×93人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×78人泊</p>	<p>将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行った(1団体1回につき20万円を限度)。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円/人泊 地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 利用実績</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円×267人泊 地域交流費:250円×54人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×217人泊</p>	<p>将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行った(1団体1回につき20万円を限度)。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円/人泊 地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 利用実績</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:1,500円×2,521人泊 地域交流費:250円×0人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×516人泊</p>	
		令和5年度	令和6年度(予定している内容)	
		<p>将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行った(1団体1回につき20万円を限度)。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:2,000円/人泊(または1,500円/人泊) 地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 利用実績</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:2,000円×2,797人泊(1,500円×243人泊) 地域交流費:250円×138人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×439人泊</p>	<p>引き続き、将来の観光リピーターとなりうる若年層の誘致を進めるため、高等学校や大学等と連携して合宿の誘致を図るとともに、本町で行われる学生合宿に対して補助を行う。</p> <p>1. 補助内容</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:2,000円/人泊、地域交流費:250円/人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円/人泊</p> <p>2. 予算枠</p> <p>(1) 県外団体 宿泊費:2,000円×3,000人泊 地域交流費:250円×200人</p> <p>(2) 県内団体 宿泊費:1,000円×100人泊</p>	



評 価 (Check)						
成果を測る指標 (KPI・数値目標)	事業利用者数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	年間延べ4,084人泊		令和5年度末	年間延べ 3,479 人泊	63.3%
	目標値 (令和6年度末)	年間延べ5,500人泊				
① 数値目標達成状況					未達成	
達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことや、県外団体の宿泊費の県補助が1,500円から2,000円に増額されたことにより、令和5年度においては、数値目標である年間の事業利用者数が、前年度実績の3,037人泊から増加し3,479人泊となった。					
② 事業成果						
令和5年度の成果・課題	コロナ前の状況に戻つつあるが目標は未達成である。充実したスポーツ施設と宿泊施設があることを、広く周知していくことが課題である。					
戦略期間全体を通しての成果・課題	コロナ前の状況に戻つつあるが目標は未達成であり、今後合宿施設の整備計画もあることから、効果的なPRを行っていくことが課題である。					
③ 令和7年度以降の事業継続予定					継続予定あり	
(継続予定ありの場合) 今後の方針	部活動やサークル活動を行う団体は、毎年一定数の見込みがあると思われることから、施設管理者と連携して、利用者に安心・安全の合宿環境を提供する。 また、地理的なことから関西地域(京都・大阪・兵庫・和歌山)がメインになるが、東海・中国四国地域からの利用拡大や北陸新幹線敦賀開業による関東地方からの利用に期待したい。					
④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)						
<ul style="list-style-type: none"> ・目標には届かなかったが、コロナ禍後、補助制度の利用者数が着実に増加していることは評価できる。 ・事業継続を検討するに当たっては、現在集中している関西地域からの利用を維持していくとともに、関西以外の地域からの利用を促進する方策の検討が必要である。 						

外部評価の結果
(委員)施設が充実しているにも関わらず、KPIが達成できなかったのはもったいない。これからもっとアピールしてほしい。

第2次おおい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-⑦	課 名	住民窓口課
------	-----	-----	-------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	本町の特性を活かした体験・交流の充実		
戦略事業名	⑦若者出会い交流応援事業		
予算事業名	若者出会い交流応援事業		
令和5年度実績額(円)	317,860円	令和6年度予算額(6月補正後)	1,197,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業概要・実績	<p>出会い交流事業の一環として 頭巾山青少年旅行村にオープンしたグランドゴルフ場で、男女グループに分かれて競技を行った後、よざえもんcaféで食事をしながらの交流会を行った。(男性8名・女性8名参加)</p> <p>民間で開催するカップリング交流パーティーの開催にあたり、事業費の一部を補助(1回目:男性8名・女性8名参加)(2回目:男性9名・女性9名参加)</p>	<p>結婚セミナーを実施した後、人気芸人が代表選手となって話題となったニュースポーツの(モルック)を実施した。その後、メンバーを入れ替えフリートークを行い交流を図った。</p> <p>民間での開催はR3年度はなかった。</p>	<p>里山文化交流センターでポッチャを実施した。その後、1対1のトークタイムやビンゴゲーム、ランチでの交流を図った。(男性5名・女性5名参加)</p> <p>民間での開催はR4年度はなかった。</p>
	令和5年度	令和6年度(予定している内容)	
	<p>軽スポーツを通じた若者同士の出会い・交流機会を創出するため、「モルック交流会」を実施した。(17回開催:計64名参加)</p> <p>独身の男女の出会いと交流の機会の提供を図るためのイベントを2回開催した。 1回目:移動中のバス内での1対1のトークやレインボーライン散策、YUMI KATSURA MUSEUM WAKASAでの施設見学、ランチ、ゲームを行った。(男性6名・女性6名参加) 2回目:あみーしゃン大飯で男女の2人1組でモルックを行った後、青戸ベイサイドヒルズで、食事、フリートークを行った。(男性5名・女性5名参加)</p> <p>民間での開催はR5年度はなかった。</p>	<p>軽スポーツイベントを実施し、若者同士の交流・出会いを促進する。</p> <p>独身の男女の出会いと交流の機会の提供を図るためのイベントを実施する。 1回目:舞鶴ふるるファームでのクッキー作り体験とランチで交流を図る。 2回目:若狭フィッシャーメンズワーフでの食事、観光船でのスーパードア火勢の花火鑑賞で交流を図る。 3回目:町内カフェでの食事、トーク、ゲームで交流を図る。</p> <p>民間で開催するカップリング交流会に対し、開催費の一部を助成する。</p>	



評 価 (Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	参加者数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計127人		令和5年度末	累計303人	89.1%
	目標値 (令和6年度末)	累計340人				

① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析	<p>婚活イベントにおいては、令和2～4年度までの期間でコロナ感染症拡大防止の観点から年2回の開催を予定していたが、年1回しか開催できなかった。また、令和3年度以降に補助金を活用した民間団体等によるイベントの実施がなかったため、事業規模が縮小してしまった。</p> <p>しかし、令和5年度には年2回のイベント開催に加え、6月以降から「モルック交流会」を大飯地域、名田庄地域で毎月各1回開催し、参加人数が伸びたことが大きな要因であると考えられる。</p> <p>今後も、事業に参加したくなるような魅力的な企画に努めるとともに、補助金申請団体のさらなる掘り起こしに取り組み実績確保に努めていく。</p>
-----------	--

② 事業成果

令和5年度の成果・課題	<p>婚活イベントでは、1対1のトークの時間を設けたことや、男女の2人1組でのゲームで交流を図り、2組のマッチングが成立した。</p> <p>2回開催したが、いずれも参加者が定員に達していないため、参加したくなるような魅力的な企画に努める。</p> <p>【婚活イベント】 (1回目)男性6名、女性6名参加 (2回目)男性5名、女性5名参加 【モルック交流会】17回開催(計64名参加)</p>
戦略期間全体を通しての成果・課題	<p>行政主体事業を継続して実施し、補助金を活用した民間団体等によるイベントの実施により、独身の男女の出会いと交流の機会を提供することができた。</p>

③ 令和7年度以降の事業継続予定 継続予定あり

(継続予定ありの場合)今後の方針	<p>引き続き、独身の男女の出会いと交流の機会の提供を図るためのイベントを実施する。</p>
------------------	--

④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)

<p>・目標参加者数を概ね達成し、R5年度は本事業により2組のカップルが誕生するなど、事業として一定の成果を挙げたと評価できる。</p> <p>・事業継続を検討するに当たっては、関係機関とも連携して魅力的な企画づくりを行うなど、参加者数の増加や実際のマッチングに繋がる方策を検討していく必要がある。</p>

外部評価の結果

<p>意見等なし</p>

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-⑧	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	特色ある地域づくりの推進		
戦略事業名	⑧まちづくり団体・集落ぐるみチャレンジ応援事業		
予算事業名	まちづくり団体支援事業		
令和5年度実績額(円)	1,100,000円	令和6年度予算額(6月補正後)	2,102,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		<p>平成29年度から本格的なまちづくり活動に繋げるための入り口として、①「まちづくりチャレンジ事業」を制度化。</p> <p>平成23年度にスタートした②「元気なまちづくり支援事業」については、既存団体の支援が終わり次第廃止することが決定しているが、令和2年度から新たに③「まちづくり支援採択事業」を制度化し、「元気なまちづくり支援事業」からの移行も可能とした。</p> <p>【実績】 まちづくりチャレンジ…1団体(新規) まちづくり支援採択…1団体(元気なまちづくり支援事業より移行) ※元気なまちづくり支援事業を活用している4団体は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動を中止した。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一部の団体の活動が中止となったが、ウィズコロナに対応して活動内容を変更するなど、事業実施団体のなかで創意工夫がみられた。</p> <p>【実績 事業実施団体数(採択数)】</p> <p>①元気なまちづくり支援事業…4団体(4団体) ②まちづくりチャレンジ事業…1団体(2団体) ③まちづくり支援採択事業…1団体(4団体)</p>
事業概要・実績	令和5年度	令和6年度(予定している内容)	
	<p>チャレンジ事業を活用した新たなまちづくり団体を含め、計6団体の活動を支援した。</p> <p>【実績 事業実施団体数(採択数)】</p> <p>①元気なまちづくり支援事業…1団体(2団体) ②まちづくりチャレンジ事業…3団体(3団体) ③まちづくり支援採択事業…2団体(2団体)</p>	<p>住民が主体的となり創意工夫を凝らしたまちづくりにチャレンジする団体を下記の補助制度にて積極的に支援する。</p> <p>【R6実施予定団体数/予算】</p> <p>①元気なまちづくり支援事業 2団体/300千円 ②まちづくりチャレンジ事業 3団体/300千円 ③まちづくり支援採択事業 5団体/1,500千円</p>	



評 価 (Check)						
成果を測る指標 (KPI・数値目標)	活動団体数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計10団体		令和5年度末	17団体	113.3%
	目標値 (令和6年度末)	累計15団体				
① 数値目標達成状況					達成	
達成状況の要因分析	<p>これまでに意欲のある団体が積極的に制度を利用できるよう、補助事業の制度見直しを行いながら周知を図ってきたことから、団体活動数は順調に増加し、令和4年度にKPIを達成している。さらに、令和5年度はまちづくりチャレンジ事業を活用した2団体分が増加となった。</p>					
② 事業成果						
令和5年度の成果・課題	<p>まちづくりチャレンジ事業を活用した新規団体を含む6団体に対して、補助金による支援を行い、町民活動の活性化に寄与することができた。</p>					
戦略期間全体を通しての成果・課題	<p>チャレンジ事業制度の活用により、新たにまちづくり活動に取り組む団体を順調に増やしてきたことから、KPIを達成しているが、単年の活動で休止してしまう団体も少なくないため、そのような団体が持続的かつ将来的には自走できるような団体に発展していくための支援が必要である。</p>					
③ 令和7年度以降の事業継続予定					継続予定あり	
(継続予定ありの場合) 今後の方針	<p>まちづくり団体支援事業補助金は、活動人口、交流人口、定住人口の活性化を目的とした町民主体のまちづくり活動に対する支援制度である。 現時点で3つの補助制度を設けているが、改めて既存制度の見直しを行ったうえで、引き続き、新たな団体が活動を開始するきっかけの創出や既存団体の継続的かつ発展した活動に向けた支援を継続していく。</p>					
④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)						
<p>・本事業の補助により目標を超えるまちづくり団体が誕生し、各団体が独自色のある活動を展開したことは、地域の活性化に寄与したものと評価できる。 ・事業継続を検討するに当たっては、既存制度の実績や成果等を検証した上で、まちづくり団体の育成や地域活動の促進において効果的な制度づくりを検討する必要がある。</p>						

外部評価の結果
意見等なし

第2次おい町未来創生戦略 事業評価シート

整理番号	3-⑧	課名	まちづくり課
------	-----	----	--------

戦略分類	3. 若者活力		
取組の方向	特色ある地域づくりの推進		
戦略事業名	⑧まちづくり団体・集落ぐるみチャレンジ応援事業		
予算事業名	おい町集落ぐるみ町民指標活動支援事業(チャレンジ事業)		
令和5年度実績額(円)	104,000円	令和6年度予算額(6月補正後)	3,200,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業概要・実績	<p>【概要】 第2次おい町総合計画に掲げる、3つのプロジェクト(活動人口活性化、交流人口活性化、定住人口活性化)実現に向けた集落の取組みを支援。上限20万円を助成 例: 景観・環境整備、若者によるまちづくり、空き家の利活用、町外の人との交流 など</p> <p>【実績】1件 ①野尻区 桜植栽運動と情報発信のためのオリジナルカレンダーの作成(野尻区)</p>	<p>【概要】 第2次おい町総合計画に掲げる、3つのプロジェクト(活動人口活性化、交流人口活性化、定住人口活性化)実現に向けた集落の取組みを支援。上限20万円を助成 例: 景観・環境整備、若者によるまちづくり、空き家の利活用、町外の人との交流 など</p> <p>【実績】3件 ①野尻区 入口休耕田を積極的に利用したコスモスの栽培(野尻区) ②虫送り・松明行事映像記録活動(岡田区) ③バスステーション周辺景観整備事業(河村区)</p>	<p>【概要】 第2次おい町総合計画に掲げる、3つのプロジェクト(活動人口活性化、交流人口活性化、定住人口活性化)実現に向けた集落の取組みを支援。上限20万円を助成 例: 景観・環境整備、若者によるまちづくり、空き家の利活用、町外の人との交流 など</p> <p>【実績】0件 区長会でも広く案内し参加を呼び掛けたが、残念ながら実績無しとなった</p>
	令和5年度	令和6年度(予定している内容)	
	<p>【概要】 第2次おい町総合計画に掲げる、3つのプロジェクト(活動人口活性化、交流人口活性化、定住人口活性化)実現に向けた集落の取組みを支援。上限20万円を助成 例: 景観・環境整備、若者によるまちづくり、空き家の利活用、町外の人との交流 など</p> <p>【実績】1件 山田区 しだれ桜鑑賞会とチューリップの植え付け</p>	<p>現行のチャレンジ事業の制度を見直し、新たにおい町集落ぐるみチャレンジ事業補助金を設立し、人口減少やコロナ禍等により停滞した住民同士の交流や集落活動の活性化を図る。</p> <p><おい町集落ぐるみチャレンジ事業補助金></p> <p>対象事業: 住民同士の交流や集落の活性化 を目的とした事業 補助金額: 20万円</p>	



評 価 (Check)						
成果を測る指標 (KPI・数値目標)	チャレンジ件数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計13件		令和5年度末	累計19件	54.3%
	目標値 (令和6年度末)	累計35件				
① 数値目標達成状況					未達成	
達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症の拡大による行動制限など、集落内での活動が停滞した期間が続いたことから、目標の達成が厳しい状況である。					
② 事業成果						
令和5年度の成果・課題	令和5年度においても新型コロナウイルス感染症の影響は完全に払拭されたわけではなく、各集落の活動も慎重にならざるを得なかったため、新たな取り組みを開始しようという集落は少なく、実績は1件にとどまった。					
戦略期間全体を通しての成果・課題	令和5年度末時点ではKPIの達成は厳しい状況ではあるが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、集落内での活動も再開傾向にあるなか、制度の支援内容を見直し、周知を広く図ったことで、コミュニティ活動の活性化に向けた新たな取り組みや新型コロナウイルス感染症により中止となっていた行事等を再開する集落がみられた。					
③ 令和7年度以降の事業継続予定					継続予定あり	
(継続予定ありの場合) 今後の方針	おおい町集落ぐるみチャレンジ事業補助金は、令和6年度のみ限定的な制度としているが、人口減少や高齢化がすすむなかで、集落活動の活性化は、町全体の活性化につながる重要な取り組みであるため、対象事業や周知・募集方法の見直しを改めて行ったうえで、各区の新たな取り組みや住民同士の交流を促進するための取り組みについて、引き続き支援を行っていく。					
④ 内部評価結果(①～③を踏まえた評価)						
<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の利用件数が伸び悩んだのはコロナ禍の影響が大きかったと考えるが、事業の募集時期や募集期間が区長の交代時期と重なるなど、制度の内容が各区にとって利用しづらかったことも原因であるとする。 ・事業継続を検討するに当たっては、各区にとって使い勝手がよく、地域の活性化にチャレンジしやすい制度内容を検討していく必要がある。 						

外部評価の結果
<p>(委員) 令和6年度の予算額が令和5年度の実績額より大幅に増加しているが、どのような計画で増加したのか教えてほしい。</p> <p>(町回答) この事業は町内全63集落の自主活動を支援する事業であるが、コロナ禍で行き届かなくなったコミュニティ活動を再開してもらうメニューを作った。各集落の活動を促進させるために、手続きや募集の仕方、活動時期も含め、幅広に対応して使い勝手のいい制度にしていきたい。活用してもらうことによって地域のコミュニティがより深まると考えているので、しっかりと活用できるようにしていきたい。</p>